

令和5年12月6日

山口県体育学会関係各位

理事長 岡野 亮介

山口県体育学会第68回大会

ご案内

時下、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素より本学会の発展につきまして、御高配賜わり誠にありがとうございます。
さて、標記大会を下記の要領にて開催いたします。
多忙の折りとは存じますが、是非、ご参加下さいますようお願い申し上げます

記

日時：令和5年12月9日(土)
10:00～(受付9:30～)
場所：至誠館大学3号館311教室
(〒758-8585 萩市椿東浦田5000)
主催：山口県体育学会
(ホームページ：<http://www.yamaguhi-taiiku.jp/index.html>)
後援：至誠館大学

至誠館大学キャンパスマップ



※お車でお越しの方は、上記マップの **駐車場** にお停めください。

—大会プログラム—

受付 9:30～
開会の辞 10:00～10:05

1. 一般研究発表（発表 10 分・質疑 3 分）

座長 青木 健（山口大学）

10:06～10:19

1. 総合型地域スポーツクラブへの実態調査の分析と考察－山口県内の総合型クラブを対象としたアンケート調査と訪問調査の結果に着目して－

鳥山稔・岡崎祐介（至誠館大学）

山口県内の総合型地域スポーツクラブ（以下 総合型クラブ）に対するアンケートを 2022 年 10 月に実施し、54 クラブ中 39 クラブ（回答率 72.2%）から回答を得た。調査方法は紙面での郵送法で実施し、今回はその調査結果と分析を述べる。また、地域スポーツを支える総合型クラブとして持続していくためには魅力ある指導者とプログラム、そして安全な環境が求められている。今回の調査を分析していく中で特色ある総合型クラブに対して、文化・スポーツによる地域課題の解決に向けた取組に関する具体的な事例を取材した。今回は取材を実施した 3 クラブの事例について紹介する。

キーワード：総合型地域スポーツクラブ、スポーツ環境、地域課題

10:20～10:33

2. 陸上スクールの設立・運営について（2 年次）

藤田昌彦（株式会社弥栄）

令和 4 年度より、陸上スクールを立ち上げた。その経緯、これまでの歩み、見えてきた課題、令和 5 年度からの部活動の地域移行による対応等々、様々なニーズと今後の方向性について、これからも取り組んでいきたい。（今回は、スタートしてからの進捗状況やクラブチームとしての成長過程について説明）

キーワード：部活動、営利、指導者、経営

座長 鳥山 稔（至誠館大学）

10:34～10:47

3. 明治期におけるダンス教育とその音源に関する研究

船場大資（山口学芸大学）、小野隆洋（山口芸術短期大学）

ダンスは明治期から行われていた教育科目であり、ダンス教育に関わる系譜や関連する研究は多くの先行研究で明らかにされてきている。しかしながら、その初期段階にあたる当時の教科書（『国定読本』）には動きは掲載されているが、楽譜は掲載されていない。そ

れゆえ、音と映像を伴う明治期のダンス教育の様相は殆ど完全な形で残されていないため、実際にはどのようなダンス教育がなされていたのかは不明である。本研究では、当時の音源を発見したことで、当時のダンス教育を再現することを試みる事ができた。

キーワード：唱歌遊戯、ダンス

10:48～11:01

4. CLIL の視点を取り入れた英語による体育実技授業の試み (6) – 英語を使用した卓球の授業を事例として –

伊藤耕作 (宇部工業高等専門学校)、二五義博 (山口学芸大学)

現在日本では、外国語の効果的な習得方法の 1 つとして、CLIL (内容言語統合型学習) が注目されつつある。CLIL とは「内容と言語」の同時取得に加え、「思考」や「協学」の要素も取り入れた、より質の高い学びを目指す学習者中心の指導方法のことである。他教科内容との組合せとしては、英語と算数、理科や社会とは既に実践例があるが、実技教科、とりわけ、体育を事例とした研究はまだ少ない。そのような中、伊藤・二五は、球技 5 種目を事例として取り上げ、主に CLIL の 4C の視点からの分析により、体育と英語の教科横断的授業による利点や課題を明らかにしてきた。本発表はその第 6 弾として、卓球ダブルスの内容を英語で学ぶことが、内容への動機づけ、コミュニケーション能力の育成、思考や協同学習の視点でいかなる効果があるかを探る。

キーワード：教科横断的授業、CLIL、卓球

II. 特別講演

進行 曾根 涼子 (山口大学)

11:15～12:15

身体活動・運動が海馬の可塑的変化に及ぼす影響から、身体活動・運動について考える

丹 信介 先生

山口大学教育学部 教授

記憶との関連がある脳領域である海馬は、身体活動・運動により可塑的変化を示すことが、近年、明らかにされている。この点について、自験例を中心に研究結果を紹介するとともに、海馬の可塑的変化をもたらす機序 (想定される機序) を踏まえて、身体活動・運動の意義 (意味) について考えてみたい。

Ⅲ. 総 会 12:20～

報告事項

- 1.令和 4 (2022) 年度会計報告
- 2.令和 5 (2023) 年度事業および会計経過報告
- 3.令和 5 (2023) 年度日本体育学会報告
- 4.その他

協議事項

- 1.令和 6 (2024) 年度事業計画について
- 2.令和 6 (2024) 年度会計予算について

以上

【 演者の方へ 】

- パワーポイントを使って発表される演者の方は、PC (OS: Windows) とプロジェクターをこちらで用意いたします。ただし、ソフトは、PowerPoint 2016 ですのでご注意ください。
- プリントを配布される方は、資料を 30 部ほど各自でご用意ください。
- これら以外の方法で発表される方は、事務局までご連絡ください。

【 参加者の皆様へ 】

- 大会参加費は、無料です。
- 山口県体育学会会員の方は、年会費 (¥2,000) の納入をお願いします。
- 本学会への入会を希望される方は、ホームページの「入会案内」をご覧ください。

【 お知らせ 】

『山口県体育学研究』第 67 号への投稿を募集しています。
なお、投稿についての詳細は、『山口県体育学研究』の「投稿規定」をご覧ください。

山口県体育学会事務局

〒758-8585 萩市椿東浦田 5000
至誠館大学現代社会学部岡崎研究室内
電話 0838-24-4000 (代表)
FAX 0838-24-4090 (代表)
E-mail : y.okazaki@shiseikan.ac.jp